

平成27年（2015年）は、普照院が兵庫の地に建立されてから650年になります



皆さん、この写真はどこを空撮したものかお分かりですか？写真左下隅には現在の神戸市中央卸売市場が写っていますが、ここは当寺院から徒歩にて北へ約10分の所です。数年前までこの茶色の空き地は同市場の一部だったのですが、売却され来年にはショッピングセンターが完成します。しかし住職、そんなショッピングセンターのことなんてどう

して記事にするの？というご意見も聞こえてきそうですが、ここは今、あるものの発掘作業で大賑わいなのです。何が発見されたのでしょうか…

実は『江戸期の町家群』が、今春にこの跡地から発見されたのです。

【記事より】神戸市教育委員会は25日、同市兵庫区の旧中央卸売市場本場跡地で、江戸初期から幕末にかけての町屋群と街路跡が広範囲で見つかったと発表した。町屋は何度も火災に遭いながら同じ場所に再建され、長く生活が営まれていたことがうかがえる。市教委は「古くから港湾都市として栄えていたため、住民が離れなかったのでは」とみている。市教委は「これほど広範囲で町並みが分かるのは珍しい。当時の建物の構造や暮らしぶりを知る上でも貴重な発見」としている。

ちなみに上写真の上側へまっすぐ行くと普照院にたどり着きます。ですからこの遺跡群は、江戸時代の当寺院近辺でお商売をされていた方々の遺跡、つまり古くからの檀信徒さんのご先祖様が活躍されていた町家群だと推測されるのです。

またここからは昨年に兵庫城の石垣跡も発掘され、その石垣の土台には築城主織田信長公が比叡山から運ばせたと思われるたくさんの墓石も出土しているそうです。この記事を見たとき、あらためてこの「兵庫津」という場所は、古くは平清盛公、そして戦国時代を経て江戸～明治と様々なことがおこり、そしてその移ろいを皆様のご先祖様が菩提寺である当寺院と共に見てこられた場所であると実感しました。



★住職がこの誌面で連載していました、昨年冬に研修に行ったインドのお話

お釈迦様の微笑みをもとめて

が、このたび時宗総本山が発行する季刊誌『遊行（ゆぎょう）』に連載されることになりました（今年のお盆号から）。全16話完結の予定になっていますが、この季刊誌は各菩提寺で注文しないと手に入りません。お盆やお彼岸参りなどでお参りさせていただくお家にはその際に持って行っておりますが、欠かさず読んでみたいという方には、お寺から直接郵送させていただきます（全て無料）のでご連絡下さい。（振込用紙に書き添えていただいても結構です。）

*なおこの誌面でのインド旅行記は、終了させていただきます。短い間でしたがお読みいただき誠にありがとうございました。

前回の不動心第36号に掲載致しました『親が亡くなった。まずは何をすべきか』

に関して予想以上の反響があり、お盆参り中にも色々ご質問いただいたお家がたくさんありました。様々なお話をお聞きする中でこの平成も四半世紀が経過した今、皆さんやその親族が昭和の時代や平成初期と同じような家族構成、そして経済・住宅・就業事情ではないということがよく分かりました。

しかしお供養のお気持ちは、時代が変わっても変化するものではありません。皆さんの誰もが納得し、そして安心していただけるようなお弔いをめざして、当寺院は常に考えていきたいと思っております。そのためには皆さんのご意見やご要望が、私やお寺の今後にとっての一番の良薬となります。これからもお参りさせていただいた際やお電話を頂戴した時など、遠慮なくお寺に対して日頃思っていることなどをお伝えいただければと思います。そして当寺院からもどんどん情報を発信していきたいと思っております。



〔編集後記〕

この原稿を執筆している最中（8月24日）に、表ページの市場跡からさらに出てきた太平洋戦争時に米軍が投下した不発弾処理が行われました。この不発弾は、もちろんあの神戸大空襲時のものです。しかしあの不幸な歴史をも乗り越えこの地を愛し守ってきた先人の思いを、毎朝ご本尊様に手を合わせてお勤めする中で感じとることができます。常に、ご先祖様に感謝です。

合掌

発行：[時宗 慈光山 普照院] 責任者 小田義宗

☎652-0853 神戸市兵庫区今出在家町4-1-29

電話・ファックス 078-671-1787 ホームページ <http://fusyoin.com/>

● facebook ページ『普照院』、随時投稿中です。 



これからは、お寺もどんどん情報を発信します。

とくに次世代をになう、若い方々・お子様たちに教えてあげてください。

